

平成29年3月 31 日

平成28年度 東京都立小山台高等学校 全日制課程
学校運営連絡協議会 実施報告

1 組 織

- (1) 名 称 東京都立小山台高等学校全日制課程学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成 副校長、主任教諭(庶務・広報部主任)〔事務局長〕、経営企画室長
以上3名
- (3) 内部委員の構成
校長〔協議会会長〕、主幹教諭(教務部主任)、主幹教諭(生徒部主任)、主任教諭(進路部主任)、主幹養護教諭(保健部主任)、主任教諭(庶務・広報部主任)
以上6名
- (4) 外部委員の構成
大学教授(学識経験者)、教育研究所副代表(卒業生保護者代表)、同窓会副会長(卒業生代表)、公益財団法人事務局長(関係団体代表)、品川区立中学校長、大田区立中学校長、品川区立小学校長(以上近隣小中学校長3名)、PTA会長〔協議会副会長〕、PTA副会長(以上保護者代表2名)
以上9名

2 平成28年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1回~第3回)の開催日時、会場、出席者、おもな議題等
- <第1回>平成28年7月1日(金)午後3時30分から5時00分まで 校長室にて
(出席)外部委員6名、内部委員・事務局9名
(おもな議事)協議委員の委嘱及び自己紹介、学校経営概要説明、校務運営状況及び平成28年度第1学期教育活動報告、校務分掌各部からの報告、評価委員選出、意見交換・協議
- <第2回>平成28年11月24日(木)午後3時30分から午後5時00分まで 校長室にて
(出席)外部委員7名 内部委員・事務局9名
(おもな議事)校務運営状況及び平成28年度第2学期教育活動報告、校務分掌各部からの報告、平成28年度学校評価アンケート実施方法及び内容について、意見交換・協議
- <第3回>平成29年3月3日(金)午後3時30分から午後5時00分まで 校長室にて
(出席)外部委員7名、内部委員・事務局7名
(おもな議事)校務運営状況及び平成28年度第3学期教育活動報告、校務分掌各部からの報告、平成28年度学校評価アンケート集計結果と今後の学校評価の集約について、学校評価に対する意見交換、意見交換・協議
- (2) 学校評価委員会(第1回~第3回)の開催日時、会場、出席者、おもな議題等
- <第1回>平成28年7月1日(金)午後3時00分から3時30分まで 校長室にて
(出席)外部委員1名、内部委員・事務局2名

(おもな議事) 評価委員長候補の選出、昨年度学校評価結果の分析・考察、今年度学校評価実施予定確認・内容検討、協議

＜第2回＞平成28年11月24日(木) 午後3時00から午後3時30まで 校長室にて
(出席) 評価委員1名、内部委員・事務局1名
(おもな議事) 学校評価の観点・項目、内容・質問文の検討、実施時期の確認、協議

3 平成28年度学校運営連絡協議会による学校評価について(学校評価報告)

(1) 自己評価及び学校関係者評価の実施概要

- 第2回学校運営連絡協議会の協議結果を受け、学校評価アンケートの内容は、前年度の内容を踏襲することで実施した。これは、データの継続性を重視することに立脚したためである。
- 回答方式は前年度に引き続きマークシート方式とした。
- 教職員による自己評価は、12月に実施。回収数61名(回収率100.0%)
- 生徒向けアンケートは、12月中旬に実施した。回収数949名(回収率100.0%)
- 保護者向けアンケートは、12月中旬に実施した。回収数716名(回収率75.4%)
- 地域・来校者向けアンケートは、12月19日の学校説明会時に来校者(中学生及びその保護者)に協力を依頼し実施。回収数中学年生111名、その保護者等31名。

(2) 今年度評価結果のおもな傾向と特徴

ア 総評

- 全体的傾向として、昨年度の結果と比して多くの項目で肯定的評価が微増している傾向がある。一方で、教職員の回答で肯定的な割合が減少しているものが見られる。

イ 学習指導について

- 質問2「授業が生徒の実態に見合った進度やレベルである」について、教職員の「A」評価は減少し、「B」評価が増加した。
- 質問4の「教員は指導内容や指導方法をよく工夫し、質の高い授業を行っている。」については、「E」評価が増加し、肯定的評価が減少した。
- 質問6「講習など通常の授業以外の学習機会」については、「A」評価が減少した。
- 質問7「学習と班活動の両立」については、肯定的評価が増加したとしている。

ウ 進路指導について

- 進路指導について、生徒・教職員・保護者とも、昨年に引き続き、全体的に肯定的評価が増加している。
- 質問9の「進路に関する情報提供」については、全体的に肯定的評価が増加している。前年度は、若干保護者の「C」評価が増加したが、改善された。

エ 生活指導や特別活動について

- この項目全体の傾向として、肯定的評価と否定的評価の比率に昨年度との大きな差異は認められなかった。質問12の学校行事については、前年度から継続して、生徒・保護

者ともに肯定的評価が90%を超える値を示している。また、班活動についても同様であり、学校行事と班活動は本校の重要な特徴と捉えられていることが判断できる。

- 質問11「遅刻、服装、マナー」については、教職員の否定的評価が若干増加している。
- 質問14「国際交流の推進に力を入れている」については、肯定的評価が前年度から改善され増加に転じた。自由意見からは、小山台教育財団からの案内等がより周知されるようになったが、班活動等と国際交流の両方に参加する機会を作ることが難しいことがうかがえる。

オ 施設設備について

- 施設設備については、従前と同様にどの対象も否定的な評価が目立つ。保護者の3分の1、生徒の過半数、教職員の4分の3近くが否定的な評価をしている。水回りを中心とした校舎施設の老朽化、空調施設の不具合等の課題が多い。

カ 情報公開について

- 質問16「学校の情報を積極的に提供・公開」17「ホームページの充実」については、全体的に肯定的評価が大きく減少した。ホームページは東京都共通のシステムが変更になり、本校のホームページも抜本的な変更となった。今後、改善の余地があると考えられる。

キ 満足度について

- 「満足度」については、全体的に肯定的評価が増加し、安定している。

ク いじめ・体罰について

- 本年度も質問項目を設定したところ、複数の回答が見られた。体罰については別途個別調査を行い、体罰がないことを確認した。いじめについては、本アンケートの1か月後に、別途調査を行い、マークミス等であることを確認した。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価への反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- 進学指導特別推進校として、生徒、保護者、地域（近隣中学校等）の進学指導の充実に対する期待に応えるため、更なる学習環境の充実、授業改善、キャリア教育の充実、進学実績の向上、教育課程の見直しなどについて、組織的・体系的に実践していく必要性を改めて認識できた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- 学校の特色化を一層鮮明に打ち出すことが、中学生やその保護者にとっての高校選びの明確な指標と考え、国公立大学への進学を目指す学校、とりわけ難関国公立大学への進学を基調とする高校として広報活動を充実させてきた。ホームページなどをさらに活用して、学校の取り組みを生徒・保護者・地域等にわかりやすく公開することの必要性を認識した。
- 学習と班活動・学校行事等との両立は、本校の生徒指導の根幹に関わるものであり、高いレベルで実現するうえで、効果的なキャリア教育の推進とともに学力向上のための一

層の授業改善の取組が必要であることが挙げられる。そのために、教科主任会議等をさらに活用して教育改善を進めていくことが重要であると認識した。

5 「学校が良くなった」と回答した協議委員の人数

(1) 協議委員数 9名

(2) 「学校が良くなった」と回答した協議委員（外部委員）の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
5	2					2

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回、企画調整会議 0回